

2022年度全国生協連グループ社会福祉事業等助成事業  
 認知症の人が理解しやすいトイレマークの開発と普及

目的

認知症の人のトイレまでの移動支援の1つとして、マークを用いることが推奨されている。しかしながら、これまで認知症の人にとって理解しやすいマークに関する報告はなかった。そこで、本事業では認知症の人に理解しやすいマークの特徴を明らかにすることと、認知症の人の残存能力を最大限発揮できる環境作りの一助とすることを目的とした。

方法

① 認知症の人に理解しやすいマークの特徴を明らかにするために、①介護施設在住の認知症の人と職員を対象に、6種類のマーク(図1)の理解度およびわかりやすさを聴取した。



図1 調査で使用したマーク(全6種類)

- ② 認知症ケアの専門家12名に、認知症の人がマークを理解しやすくするための工夫や研究方法、マークの発展的な活用方法や普及活動についてヒアリングを実施した。
- ③ 介護施設在住の認知症の人3名を対象に、マークの有効性を検証した。
- ④ これまでの取り組みをもとに手引きの作成した。

結果

- ① 認知症の人はマークを見たままの形でとらえている可能性が高く、人の動作と物の組み合わせはマークの意味を知らなくても理解できる可能性があった。また、認知症の人と職員のマークのわかりやすさに関する回答の一部回答では、乖離があった。
- ② 2~3例のケーススタディーから始め、マークの効果に関するエビデンスの構築が重要といった意見があった。
- ③ 3事例中、2事例でマークの有効性が示された(図2)。
- ④ ①~③の結果をもとに「認知症の人が理解しやすい環境調整の手引き マークを用いたトイレまでの移動支援」を作成した(図3)。この手引きでは、事例を通じてマークを有効活用するためのアセスメントや環境調整のポイントを学べる。介護施設や自治体等に配布した。また、認知症介護情報ネットワーク(DCnet)にて公開し、PDFをダウンロードできるようにし、手引きの普及を図った。

- 夜間トイレに一人で行ける割合が約13%増加した
- 繰り返し質問がなくなった

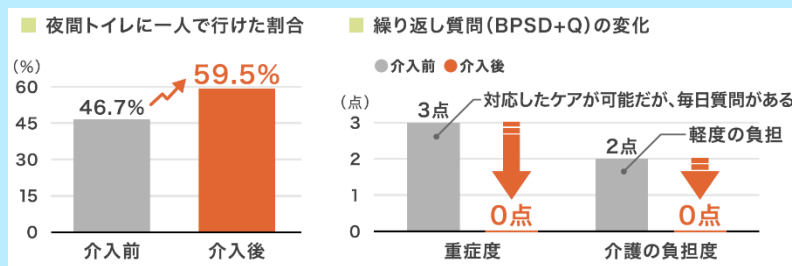


図2 トイレマークの有効性(1例)



図3 手引き